STRIX Vol. 20, pp. 79-100, 2002
A Journal of Field Ornithology ©Wild Bird Society of Japan

北方四島*の鳥類相

川那部真[1]・市田則孝[2]・金井裕[3]・川崎慎二[4]・藤巻裕蔵[5]・佐藤文男[6]

1．日本野鳥の会国際センター．〒191-0041 東京都日野市南平2-35-2
2．バードライフ・インターナショナルアジア地区委員会．〒191-0041 東京都日野市南平2-35-2
3．日本野鳥の会研究センター．〒191-0041 東京都日野市南平2-35-2
4．日本野鳥の会サンクチュアリセンター．〒086-0074 北海道根室市東梅103根室市春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター
5．帯広畜産大学野生動物管理学研究室．〒080-8555 北海道帯広市稲田町西２線11
6．山階鳥類研究所標識研究室．〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115

はじめに

北方四島と呼ばれる択捉島，国後島，色丹島，歯舞諸島は北海道の北東に弧状をなして連なる島嶼群であり，千島列島の南部に位置している．この地域には，日本列島とカムチャツカ半島の要素が混在した多様な鳥類相が成立しており，19世紀の初頭から欧米の研究者を中心に鳥類の研究が行なわれてきた．また，20世紀前半の一時期には日本人による研究も活発に行なわれたが（内田 1912，山階 1929，Yamashina 1931など），第二次世界大戦以降は領土問題から入域が厳しく制限され，日本人研究者による報告はみられない．その後はおもに，ソビエト連邦の研究者により調査が行なわれており，特にNechaev（1969）に詳しい．最近では，ネチャエフ・藤巻（1994）が北方四島とその周辺に生息する鳥類目録の中で，それまでに記録のある280種を取り上げている．これらの報告から，北方四島の鳥類相は北海道の鳥類相と類似していることが予測できるが，生息数や生息環境との関係などは不明な点が多い．

筆者らは，1998年に当地の自然保護推進の基礎資料収集を目的に，日本人鳥類研究者として戦後初めて北方四島の択捉島と色丹島へ入域して鳥類相調査を行なうとともに，2000年にも国後島で調査を実施する機会を得た．ここでは，その結果に基づいて北方四島の鳥類相について報告する．なお地名については，本文中では日本名をもちいたが，図表と英文要約にはこれまでのソビエト連邦をはじめとする研究者による報告との対比を容易にするため，日本名とロシア名とを併記した．

調査地および調査方法

調査地は，北方四島のうち択捉島および国後島，色丹島とそれらの周辺海域であり，これ

2001年１月９日 受理
*キーワード：海鳥，シマフクロウ，タンチョウ，鳥類相，*北方四島

＊日本政府は，公式には北方領土という用語をもちいている．本稿では北海道の中でも，北海道本島と択捉島・国後島・色丹島・歯舞諸島を区別しやすくするために，北海道本島を北海道，北方領土に相当する択捉島・国後島・色丹島・歯舞諸島を北方四島と表現した．

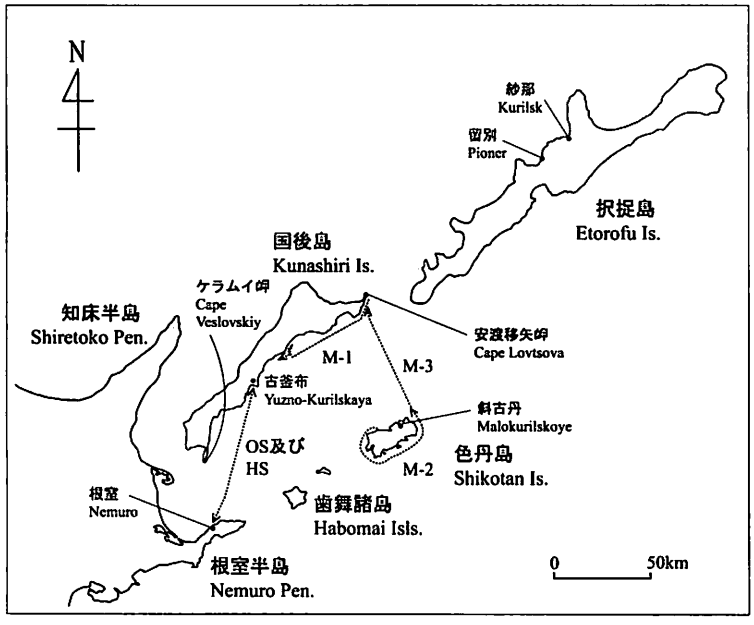

図１．　海上観察ルート
Fig. 1.　A map of the surveyed area at sea.

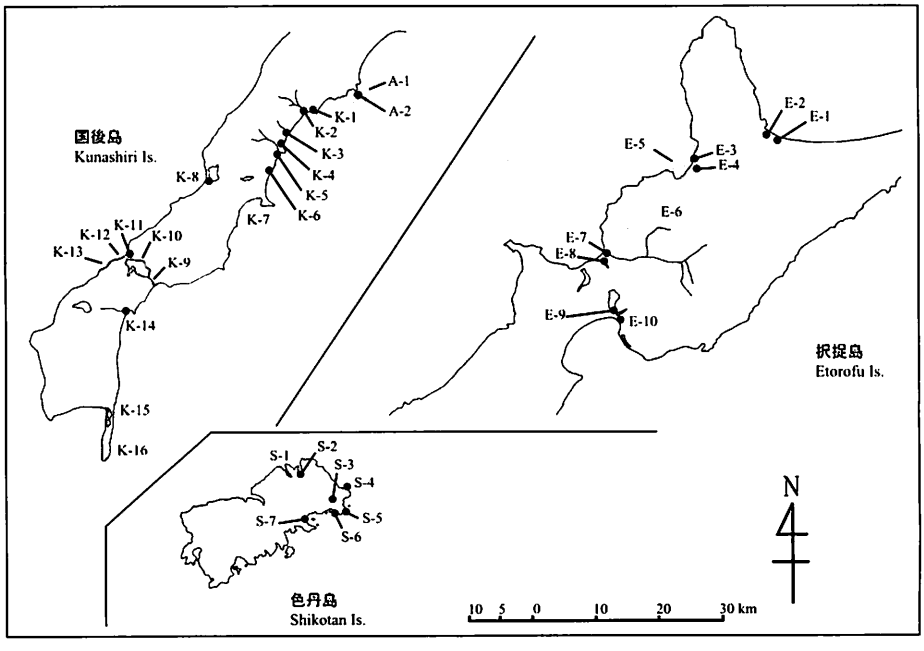

図２．　任意踏査実施地点
Fig. 2.　A map of the surveyed area.

表 1. 調査地の環境概要
Table. 1. Environment of Etorofu Is., Kunashiri Is. and Shikotan Is.

島名 Islands	調査地の環境概要 Environment
択捉島 Etorofu Is.	12の火山塊と多くの山からなる北方四島で最大の島であり，南西端には活火山で最高峰（標高1,221m）のベルタルベ山がある．植生では，アカエゾマツの大規模な森林が発達し，島の中央部にはチシマザサなどの草地も広がる．森林はアカエゾマツのほか，グイマツの巨木が紗那から留別へ至る間に多数見られるが，いずれも風雪の影響を大きく受けて樹高が低く変形している．
国後島 Kunashiri Is.	北方四島の中では択捉島に次ぐ大きさの島であり，島の北東部に爺々岳，中部に羅臼岳，南部に泊山と山々が連なる．平地は少なく，山間部から流れ出た水は急で短い多くの渓流をつくって海に注いでいる．森林はエゾマツやトドマツなどの針葉樹林が主体であり，ミズナラなどの広葉樹林は少ない．林のない場所にはチシマザサが優占し，沿岸部ではハマナスの大群落が発達する．ケラムイ岬は，全体が砂丘草原からなるとともに，湿地や沼が点在する．東沸川周辺にはヤチヤナギやワタスゲ，エゾカンゾウ，ハイイヌツゲ，チシマガリヤス，ネムロコウホネ，エゾノレンリソウ，エゾノサワアザミ，チシマアザミ，ハイマツなどの生育する中間湿原が広がる．
色丹島 Shikotan Is.	歯舞諸島の東部にあり，比較的平坦な地形からなる．標高が170～240m程度のなだらかな小山が多く見られ，海岸沿いには大小多数の島が点在するとともに，沿岸部は複雑な地形を形成する．また大規模な森林は発達せず，チシマザサなどの草地が大きな面積を占める．森林ではエゾマツやトドマツ，ダケカンバ林が点在しており，ミヤマビャクシンなどの疎林となる場所もある．谷間の河川沿いには，樹高３m程度のケヤマハンノキ林が発達する．

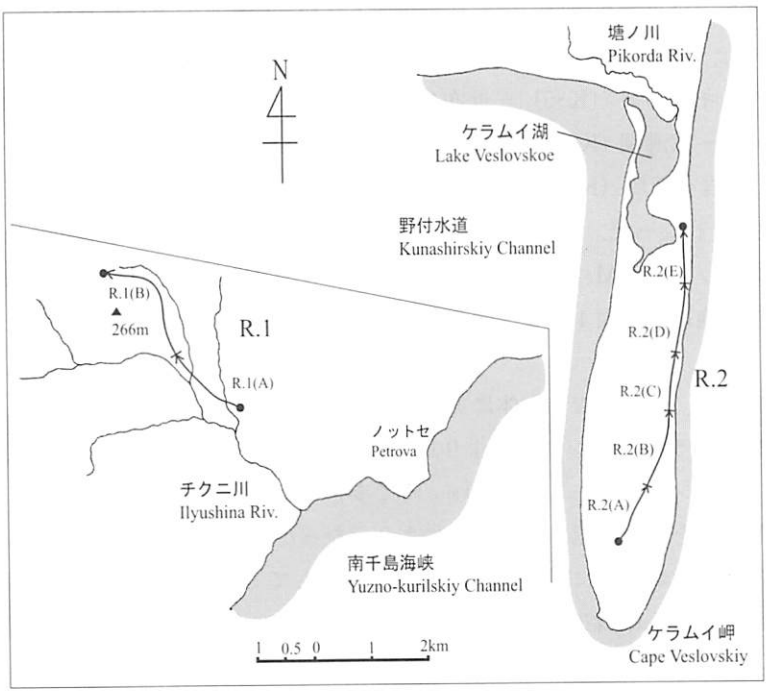

図３．ラインセンサスルート位置
Fig. 3. Location of two census routes on Kunashiri Is.

らの詳細については付表１に示した．1998年７月15～20日にかけての第１回目の調査では，択捉島の別飛湿原（E-1）とその周辺の森林（E-2），紗那周辺（E-3），紗那近郊孵化場（E-4），ナヨカ湾（E-5），紗那から留別に至る森林地域（E-6），留別川（E-7）と留別沼（E-8），年萌湖分岐（E-9），年萌（E-10），色丹島のマタコタン海岸（S-1），斜古丹近郊ダム（S

表2. ラインセンサスルートの環境概要
Fig. 2. Environment around census routes.

調査地点 Location	ルートNo. Route No.	ルート長 Length	環境概要 Environment
チクニ川上流 Chikuni River. (Ilyushina R.)	R.1	3 km	周辺植生は，ミズナラ，ハルニレ，トドマツなどからなる針広混交林とササ草地からなる．R.1(A)は起点から1.5km地点までで，混交林が約60%，ササ草地が約40%を占める．R.1(B)は1.5から3km地点までで，混交林が約80%，ササ草地と高茎草地が約20%を占める．調査者2名が1区ずつ個別に実施．
ケラムイ岬 Keramui (Veslovskiy)	R.2	5 km	全体が砂丘草原となっており，ハマナスやエゾカンゾウ，イワノガリヤスなどが生育する．起点から3km地点までのR.2(A)～R.2(C)は低茎草地が100%を占める．3km地点のR.2(D)から終点のR.2(E)までは湿地や沼とともに高茎湿地植生が約40%，低茎草地が約60%となる．しかし，R.2(A)～R.2(E)に至る各区ともに環境は均一ではない．森林は見られない．調査者5名が1区ずつ個別に実施．

-2)，カンバライソから斜古丹に至る峠 (S-3)，エイタンノット崎 (S-4)，イタコタン崎 (S-5)，カンバライソ沖の小島 (S-6)，イネモシリ海岸 (S-7) で鳥類観察を行なった．また船での移動中(OS，HS)には，海上に出現する海鳥類の記録も行なった．2000年7月19～28日にかけての第2回目の調査では，国後島での陸上鳥類と国後島および色丹島周辺海域の海鳥調査を行なった．国後島では，ノットセ (K-1) ～チクニ川 (K-2) ～ドマセワ川 (K-3) ～植古丹 (K-4) ～キナカイ (K-5) ～近布内 (K-6)，古釜布湾 (K-7)，ニキショロ湖 (K-8)，東沸川河口～東沸湖 (K-9)，東沸湖と監視小屋周辺 (K-10，K-11)，監視小屋～二本岩 (K-12)，二本岩～植尻 (K-13)，アンドレエフカ川沿い (K-14)，ケラムイ岬 (K-15，K-16)で鳥類観察を行なった．国後島弁天島～荒島(M-1，A-1，A-2)および色丹島軍艦岬～大崎～エイタンノット崎 (M-2) にかけては，海上から海鳥の観察を行なった．海上観察ルートと任意踏査実施地点は図1および図2に，調査を実施した島の環境概要は表1に示すとおりである．

陸上での調査は，任意踏査を主体に実施したが，国後島のチクニ川上流 (R.1) およびケラムイ岬 (R.2) ではラインセンサスにより鳥類相の定量的な把握を試みた (図3，表2)．ラインセンサスは，センサスルートを約2㎞／時で歩きながら片側50m (両側100m) の幅に出現する鳥類の個体数をすべて記録することにより行なった．調査は，R.1の場合はルートを2分割して2名の調査者が個別に，R.2はルートを5分割して5名の調査者が個別に行なった．また観察にあたっては，片側25m (両側50m) および片側50m (両側100m) を分けて記録した．

結果および考察

1．北方四島の鳥類相の特徴

1998年および2000年に実施した2回の調査を通じて，北方四島には原生的自然を含めて良好な自然環境が多く残されていることが明らかとなった．これらの島々の鳥類相は，北海道と類似するものの，一部の種については生息状況が異なっていた．陸域の鳥類では，アオバトやコヨシキリ，ヒヨドリ，コムクドリなどは北海道で普通に生息する種であるにもかかわらず，北方四島ではほとんどないし全く観察されなかった．これらの種は北方四島では文献

上も少ないとされており（Nechaev 1969），北海道ないし北方四島が，ほぼ分布北限になっているものと考えられる．森林を構成する樹種は，北海道とは異なり河畔林を除くとエゾマツやトドマツなどの常緑針葉樹が多くを占めており，ミズナラなどの広葉樹は非常に少なかった．このことは，果実食の種の分布を制限する要因になっていると考えられる．

北方四島の鳥類相は，シマフクロウやアカアシシギ，タンチョウ，エトピリカなどの種が生息する点からも，とりわけ道東の知床・根室・釧路地方の鳥類相に酷似していた．また，コマドリやルリビタキ，ヒガラ，ウソなどは本州以南では亜高山帯針広混交林などに生息する種であるが，道東から北方四島では海岸付近から山地に至る針葉樹を主体とした森林全域に生息する．つまり，道東から北方四島では，道南地域から本州以南で山地に生息する種が海岸付近にもみられるのが特徴である．北海道では，本州中部の高山帯に分布するカヤクグリやホシガラスなどが2,000m前後の標高に生息し，ホオアカやビンズイ，ゴジュウカラなどの本州中部では比較的標高の高い地域に生息する種が低地でみられるなど，鳥類の垂直分布は本州の垂直分布が「圧縮」された形でみられる（藤巻 1998）．今回は繁殖期の調査であったが，国後島では海岸付近でビンズイ（K-1）やコマドリ（K-1，3，4），ホオアカ（K-11，12，13），ウソ（K-12，13）などが観察され，択捉島（E-1，4）や色丹島（S-2）でも海岸付近の草原でウソが観察されるなど，北方四島でもこれと同様の現象が認められた．

海鳥については，国後島および色丹島の沿岸域を中心に調査を行なった．北海道沿岸域では，ケイマフリやエトピリカ，ウトウなどの海鳥が混獲等の原因により激減している（近藤ほか 1986，片岡・水野 1999）．しかし国後島荒島におけるウトウ173羽，エトピリカ85羽，ケイマフリ57羽をはじめとして，色丹島でもウトウ310羽以上，ケイマフリ575羽以上，エトピリカ18羽が観察され，悪天候と限られた調査時間にもかかわらず多くの海鳥の生息を示唆する結果が得られた．これは，海鳥にとって良好な環境が存在することを示すものである．北方四島では，沿岸１～３マイルはロシア政府による海洋保護区として船舶の立ち入りおよび網漁が禁止されている．カムチャツカ半島から千島列島を取り巻くロシア経済水域では，流網による海鳥類の混獲が発生しており（藤田・樋口 1991，Artukhin *et al*. 1999），このような規制は沿岸域をおもな生息地とするケイマフリなどの種にとっては保護の効果が大きいものと考えられる．

北方四島では近年，ロシアの経済状況の悪化とともに，国後島および色丹島，歯舞諸島とそれらの周辺海域を管轄するクリリスキー国立自然保護区の予算と職員は大幅に削減されており，密猟に対する監視や調査研究などの機能を十分に果たしていない．それに伴い，密猟や漁船の違法操業が横行し，自然環境は急速に危機にさらされつつある．今後はさらに，保護のための十分な基礎資料を得るために，クリリスキー国立自然保護区との協力のもとに，日本やロシアの研究者，自然保護関係者を交えて環境調査を継続する必要がある．

2．各島別の現地調査結果

1）択捉島

・鳥類相の概要

択捉島は北方四島のうち最大の島である．今回は，島の中央部分の森林から湿原にかけてのみ調査を行なうことができた．わずかな時間での調査結果から鳥類相を論じることは難しいが，陸上での約1.5日間の調査の結果，10目21科31種の鳥類が記録された（表3，付表2）．

択捉島の鳥類相は，国後島や北海道東部の鳥類相に類似すると考えられるが，タンチョウやシマフクロウなど記録を欠く種も多く（ネチャエフ・藤巻 1994），道東地方や国後島に比べて鳥類相の貧弱化傾向が認められた．

・環境別の鳥類相

森林の鳥類

20種の鳥類が記録された．別飛湿原付近の森林（E-2）ではアオジやアカハラ，ウソ，コルリ，ミソサザイなどが観察された．紗那近郊の孵化場（E-4）や紗那から留別に至る森林地域（E-6）では，アカゲラやコルリ，アカハラ，キビタキ，コサメビタキ，ウソ，ミソサザイ，ホシガラスなどの森林性種に加え，林縁部ではアオジやウグイス，エゾセンニュウなどが観察された．紗那周辺（E-3）では海岸段丘の斜面が森林，段丘上は潅木草原が発達しており，斜面の森林ではコルリやエゾセンニュウなどが観察された．

草原と湿原の鳥類

24種の鳥類が記録された．別飛湿原（E-1）では，海岸はハマナスが繁茂する砂丘であり，やや内陸は一面の草原と湿原，および沼が点在する湿地であった．湿原ではアオサギ，オオジュリン，シマセンニュウ，タカブシギ，ノゴマ，ハクセキレイ，ヒバリ，ベニマシコなどが観察された．紗那周辺（E-3）の段丘上の草原では，ウグイス，ベニマシコ，ノビタキ，カワラヒワ，カッコウ，ヒバリなどが観察された．段丘斜面の砂崖にはショウドウツバメの集団繁殖地がみられた．留別川（E-7）沿いの草原では，ヒバリやハクセキレイ，ノビタキ，シマセンニュウ，オオジュリン，カワラヒワなどが観察された．

河川と湖沼の鳥類

7種の鳥類が記録された．留別川（E-7）と留別沼（E-8）では，水面でキンクロハジロが，水際ではクイナやハクセキレイが観察された．また，オオセグロカモメやショウドウツバメ，ハシブトガラスが観察された．

海岸の鳥類

5種の鳥類が記録された．ナヨカ湾（E-5）では，オジロワシ，オオセグロカモメ，ウミネコ，ケイマフリ，ハシブトガラスなどが観察された．また，オジロワシはナヨカ湾のほかに，紗那周辺（E-3），紗那から留別に至る森林地域（E-6），留別川（E-7），年萌（E-10）でおもに飛翔中の個体が確認され，繁殖の可能性もあると思われたが，詳細な調査は実施できなか

った．同様にハヤブサの飛翔中の個体が紗那から留別に至る森林地域（E-6）で確認された．調査時間の制約から十分な観察を行なえなかったので詳細については不明である．

2）国後島

・鳥類相の概要

国後島は択捉島に次ぐ面積があり，陸上からの調査は中部以南の森林から湿原にかけてで行なった．のべ5日間の陸上での調査の結果，14目27科68種の鳥類が記録された（表3，付表2）．

国後島の鳥類相は，道東地方の鳥類相に類似していた．しかし，アオバトやコヨシキリ，コムクドリ，ヒヨドリ，ハシボソガラス，ハシブトガラスなどは全く観察できないか，個体数が非常に少ない点など，一部には違いも認められた．

・環境別の鳥類相

森林の鳥類

28種の鳥類が記録された．古釜布の北東部に位置するノットセ（K-1）から近布内（K-6）にかけては，ハマナスの大規模な群落が発達する砂浜海岸が続くとともに，樹林が海岸付近にまで迫っている場所が多かった．そこではシマフクロウやコマドリ，ルリビタキ，キクイタダキ，ヒガラ，ウソなどが観察された．チクニ川沿い（K-2）を内陸に入るラインセンサスルートR.1付近では，標高100m程度の地点でホシガラスが観察された．東沸湖（K-10）の南西岸には，エゾマツやトドマツの大径木からなる常緑針葉樹林が広く分布しており，また北東岸は伐採等の過去の人為的影響を受けてミズナラやハリギリ，ハルニレ，イタヤカエデなどの落葉広葉樹林が広がっていた．これら東沸湖周辺（K-10）と監視小屋周辺（K-11）の樹林ではアカゲラ，コゲラ，ミソサザイ，コマドリ，ルリビタキ，トラツグミ，アカハラ，ゴジュウカラ，キバシリなどが観察された．

草原と湿原の鳥類

36種の鳥類が記録された．ノットセ（K-1）から近布内（K-6）にかけての林縁部や海浜草原では，ノビタキやエゾセンニュウ，ホオジロなどが観察された．ケラムイ岬の先端(K-15)から基部（K-16）にかけての草原ではノビタキやシマセンニュウ，マキノセンニュウ，オオジュリン，カワラヒワなどが観察された．また基部付近（K-16）の湿地では，つがいと思われるタンチョウの成鳥が2羽観察された．ニキショロ湖(K-8)は海岸に面した湖であり，周辺でオオセグロカモメやアマツバメ，ショウドウツバメ，ホオジロ，カワラヒワなどが観察された．東沸川河口から東沸湖にかけての中間湿原(K-9)では，オオジシギやノビタキ，シマセンニュウ，コヨシキリ，オオジュリンなどがみられ，東沸湖岸（K-10）の水際ではシマフクロウの足跡が確認された．コヨシキリは択捉島と色丹島では記録されず，本島のみで記録された．監視小屋周辺（K-11）や東沸湖岸から二本岩へ至る海岸沿い（K-12，K-13）の草原では，ヒバリ，ウグイス，シマセンニュウ，ホオアカ，アオジなどが観察された．

表 3. 択捉島（1998/7/18-19），国後島（2000/7/19-24），色丹島（1998/7/16-17）における環境別鳥類生息確認種（陸上調査）．F: 森林，GW: 草原と湿原，RL: 河川と湖沼，C: 海岸，CI: 海岸と島嶼．

Table 3. Bird species recorded in Etorofu Is. (Jul 18-19 1998), Kunashiri Is. (Jul 19-24 2000) and Shikotan Is. (Jul 16-17 1998) by terrestrial research. F: Forest, GW: Grassland & Wetland, RL: River & Lake, C: Coast, CI: Coast & Islands.

No.	種	Species	Etorofu Is.				Kunashiri Is.				Shikotan Is.		
			F	GW	RL	C	F	GW	RL	C	F	GW	CI
1	カイツブリ	*Podiceps ruficollis*							○				
2	フルマカモメ	*Fulmarus glacialis*								○			
3	ウミウ	*Phalacrocorax capillatus*								○			○
4	ヒメウ	*P. pelagicus*											○
5	チシマウガラス	*P. urile*											○
6	アオサギ	*Ardea cinerea*		○				○	○				○
7	オシドリ	*Aix galericulata*											○
8	マガモ	*Anas platyrhynchos*						○	○				
9	キンクロハジロ	*Aythya fuligula*			○				○				
10	スズガモ	*A. marila*							○				
11	シノリガモ	*Histrionicus histrionicus*								○			○
12	ウミアイサ	*Mergus serrator*								○			
13	ミサゴ	*Pandion haliaetus*						○	○	○			
14	トビ	*Milvus migrans*		○				○	○	○			
15	オジロワシ	*Haliaeetus albicilla*	○	○	○	○	○	○	○	○			
16	ノスリ	*Buteo buteo*									○		
17	ハヤブサ	*Falco peregrinus*	○										
18	タンチョウ	*Grus japonensis*						○					
19	クイナ	*Rallus aquaticus*			○								
20	シロチドリ	*Charadrius alexandrinus*						○	○				
21	メダイチドリ	*C. mongolus*						○					
22	トウネン	*Calidris ruficollis*								○			
23	アカアシシギ	*Tringa totanus*						○					
24	タカブシギ	*T. glareola*		○									
25	キアシシギ	*T. brevipes*								○			
26	オオジシギ	*Gallinago hardwickii*						○				○	
27	オオセグロカモメ	*Larus schistisagus*		○	○	○		○	○	○			○
28	ウミネコ	*L. crassirostris*				○		○	○	○			
29	ミツユビカモメ	*L. tridactylus*								○			
30	ウミガラス	*Uria aalge*											○
31	ケイマフリ	*Cepphus carbo*				○							○
32	ウトウ	*Cerorhinca monocerata*											○
33	エトピリカ	*Lunda cirrhata*											○
34	キジバト	*Streptopelia orientalis*	○	○			○	○				○	
35	カッコウ	*Cuculus canorus*		○				○				○	
36	ツツドリ	*C. saturatus*									○		
37	シマフクロウ	*Ketupa blakistoni*					○		○				
38	アマツバメ	*Apus pasificus*	○	○				○	○		○		○
39	アカゲラ	*Dendrocopos major*	○				○						
40	コゲラ	*D. kizuki*	○				○						
41	ヒバリ	*Alauda arvensis*		○				○				○	
42	ショウドウツバメ	*Riparia riparia*		○	○			○	○				
43	イワツバメ	*Delichon urbica*						○					
44	キセキレイ	*Motacilla cinerea*						○	○	○			
45	ハクセキレイ	*M. alba*		○	○			○	○	○		○	○
46	ビンズイ	*Anthus hodgsoni*					○				○		
47	ミソサザイ	*Troglodytes troglodytes*	○				○				○		
48	コマドリ	*Erithacus akahige*					○						
49	ノゴマ	*E. calliope*	○	○				○				○	
50	コルリ	*E. cyane*	○										
51	ルリビタキ	*Tarsiger cyanurus*					○				○		
52	ノビタキ	*Saxicola torquata*		○				○				○	
53	イソヒヨドリ	*Monticola solitarius*											○
54	トラツグミ	*Turdus dauma*					○						
55	アカハラ	*T. chrysolaus*	○				○						
56	ウグイス	*Cettia diphone*	○	○			○	○					
57	エゾセンニュウ	*Locustella fasciolata*	○	○				○					
58	シマセンニュウ	*L. ochotensis*		○				○				○	
59	マキノセンニュウ	*L. lanceolata*		○				○					
60	コヨシキリ	*Acrocephalus bistrigiceps*						○					
61	メボソムシクイ	*Phylloscopus borealis*									○		
62	キクイタダキ	*Regulus regulus*					○						
63	キビタキ	*Ficedula narcissina*	○				○						
64	サメビタキ	*Muscicapa sibirica*					○						
65	コサメビタキ	*M. latirostris*	○										

表3. つづき
Table 3. Continued

No.	種	Species	Etorofu Is.				Kunashiri Is.				Shikotan Is.		
			F	GW	RL	C	F	GW	RL	C	F	GW	CI
66	ハシブトガラ	*Parus palustris*					○						
67	ヒガラ	*P. ater*					○				○		
68	シジュウカラ	*P. major*					○				○		
69	ゴジュウカラ	*Sitta europaea*					○						
70	キバシリ	*Certhia familiaris*					○						
71	ホオジロ	*Emberiza cioides*					○	○					
72	ホオアカ	*E. fucata*						○					
73	アオジ	*E. spodocephala*	○	○			○	○			○	○	
74	オオジュリン	*E. schoeniclus*		○				○					
75	カワラヒワ	*Carduelis sinica*	○	○				○				○	
76	マヒワ	*C. spinus*					○						
77	ベニマシコ	*Uragus sibiricus*		○				○					
78	ウソ	*Pyrrhula pyrrhula*	○	○			○	○			○		
79	シメ	*Coccothraustes coccothraustes*					○						
80	ニュウナイスズメ	*Passer rutilans*	○										
81	スズメ	*P. montanus*		○						○			
82	カケス	*Garrulus glandarius*					○						
83	ホシガラス	*Nucifraga caryocatactes*	○				○						
84	ハシボソガラス	*Corvus corone*						○		○			
85	ハシブトガラス	*C. macrorhynchos*	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
		合計種数 Total species	20	24	7	5	28	36	16	17	12	11	15
			10目21科38種				14目27科68種				9目18科33種		

河川と湖沼の鳥類

16種の鳥類が記録された．ケラムイ岬の基部（K-16）に位置するケラムイ湖や点在する湿地では，カイツブリ，アオサギ，マガモ，スズガモなどが観察され，ケラムイ湖岸には数百羽のウミネコがみられた．東沸湖（K-10）ではマガモやキンクロハジロなどが観察された．これらカモ類が繁殖しているのかどうかは不明だった．

海岸の鳥類

17種の鳥類が記録された．ノットセ（K-1）から近布内（K-6）にかけての海岸では，ウミウやシノリガモ，オオセグロカモメ，シロチドリなどが観察された．古釜布湾（K-7）ではウミウやオオセグロカモメ，ウミネコ，ミツユビカモメが観察されるとともに，市街地が形成されているため国後島内で唯一スズメがみられた．アンドレエフカ川沿い（K-14）では，トビとキセキレイが観察された．ケラムイ岬の海岸（K-15，K-16）では，ウミウやシロチドリ，メダイチドリなどが観察された．監視小屋から二本岩へ至る海岸沿い（K-12）では，ウミアイサやトウネン，キアシシギ，オオセグロカモメなどが観察された．またオジロワシが頻繁に出現し，監視小屋～植尻（K-12，K-13）では飛翔中の亜成鳥1羽のほか，食物を運ぶ成鳥1羽が観察され，キナカイ（K-5）でも海岸の樹上にとまる1つがいの成鳥が観察された．合計9か所でおもに飛翔中や樹上にとまる個体が観察されたが，個体識別はできなかったので重複記録の可能性もある．ミサゴは，東沸湖周辺（K-10）から北西部の海岸（K-12）に至る4か所で飛翔中の個体が観察され，監視小屋付近（K-11）では食物を運ぶ様子もみられた．ただし，これらオジロワシおよびミサゴともに営巣木や巣立ちビナ等の繁殖に関する直接の情報は得られなかった．クリリスキー国立自然保護区のGrigoryev氏による2000年の繁殖期の調査では，東沸湖周辺でミサゴを3つがい，オジロワシを2つがい確認している．Grigoryev

表4. チクニ川沿いにおけるラインセンサス調査結果．観察個体数（優占率）．
Table 4. Species and individual number of birds recorded along R.1, Chikuni (Ilyushina) Riv on 24 July 2000. Number of individuals (dominance rate).

	ルート Route No.	R.1 (A) 6:35-7:30 Fair			R.1 (B) 8:36-9:04 Fair		
	観察幅 Range	50m	100m	Outside	50m	100m	Outside
1 ツツドリ	*Cuculus saturatus*			1			1
2 アマツバメ	*Apus pacificus*	1(5.3)	1(4.2)				
3 コゲラ	*Dendrocopos kizuki*				1(9.1)	1(5.6)	
4 ミソサザイ	*Troglodytes troglodytes*				1(9.1)	1(5.6)	
5 コマドリ	*Erithacus akahige*		1(4.2)		1(9.1)	3(16.7)	
6 ルリビタキ	*Tarsiger cyanurus*			1			
7 ウグイス	*Cettia diphone*	4(21.1)	5(20.8)			2(11.1)	
8 エゾセンニュウ	*Locustella fasciolata*					1(5.6)	
9 シマセンニュウ	*L. ochotensis*					1(5.6)	
10 キクイタダキ	*Regulus regulus*				1(9.1)	1(5.6)	
11 サメビタキ	*Muscicapa sibirica*				2(18.2)	2(11.1)	
12 ハシブトガラ	*Parus palustris*	2(10.5)	2(8.3)	1			
13 ヒガラ	*P. ater*		2(8.3)		2(18.2)	2(11.1)	
14 シジュウカラ	*P. major*			1			
15 ゴジュウカラ	*Sitta europaea*					1(5.6)	
16 アオジ	*Emberiza spodocephala*	10(52.6)	11(45.8)		2(18.2)	2(11.1)	
17 カワラヒワ	*Carduelis sinica*				1(9.1)	1(5.6)	
18 ベニマシコ	*Uragus sibiricus*	2(10.5)	2(8.3)				
19 ウソ	*Pyrrhula pyrrhula*			2			
20 シメ	*Coccothraustes coccothraustes*						1
21 ハシボソガラス	*Corvus corone*			1			
	合 計 Total	19	24	7	11	18	2

氏は，我々に同行しながら，今回の調査で観察された個体とこれまでの確認個体は同一の可能性が高いと証言した．国後島ではカラス類がきわめて少なかったが，海岸に面するノットセ (K-1) やドマセワ川河口部 (K-3)，植古丹 (K-4)，ニキショロ湖 (K-8)，監視小屋周辺 (K-11)，ケラムイ岬 (K-15, K-16) でハシブトガラスが，同様に海岸部の監視小屋周辺 (K-11) と二本岩～植尻 (K-13) でハシボソガラスがそれぞれ観察された．個体数は計数していないが，観察の機会はハシブトガラスの方が多く，2種ともに海岸部を中心に生息しているようであった．

・ラインセンサス

チクニ川沿いでは，表4に示した4目10科21種の鳥類が記録された．生息確認種は，ヒガラやコマドリ，ルリビタキなどのような森林性種が主体であったが，エゾセンニュウやウグイスのような森林周辺部を好む種，シマセンニュウのような草地性種も含まれていた．R.1(A)は草地40%，森林60%と草地環境の割合が相対的に多いのに対して，R.1 (B) では草地が20%，森林が60%と草地環境が相対的に少なかった．この環境の違いを反映して，観察幅50mの優占率では，R.1 (A) の場合はアオジ52.6%，ウグイス21.1%，ハシブトガラおよびベニマシコ10.5%であったのに対し，R.1 (B) はサメビタキ，ヒガラ，アオジがそれぞれ18.2%，コゲラ，ミソサザイ，コマドリ，キクイタダキ，カワラヒワがそれぞれ9.1%であり，R.1(B)に比べてR.1 (A) は，森林性種よりも草地性種が多く確認された．国後島では全般的に，カラス類を観察することがきわめて少なかったが，R.1 (A) では開けた環境を好むハシボソガ

表5. ケラムイ岬におけるラインセンサス調査結果．観察個体数（優占率）．
Table 5. Species and individual number of birds recorded along R. 2, Keramui (Veslovskiy) on 20 July 2000. Number of individuals (dominance rate).

	ルート Route No.	R.2 (A) 10:00-10:55 Fair			R.2 (B) 10:05-11:00 Fair			R.2 (C) 12:09-12:36 Fair		
No. 種	観察幅 Range	50m	100m	Outside	50m	100m	Outside	50m	100m	Outside
1 カイツブリ	*Podiceps ruficollis*									
2 ウミウ	*Phalacrocorax capillatus*									
3 アオサギ	*Ardea cinerea*									1
4 オジロワシ	*Haliaeetus albicilla*			+			1			1
5 タンチョウ	*Grus japonensis*							–		
6 シロチドリ	*Charadrius alexandrinus*									
7 アカアシシギ	*Tringa totanus*									
8 オオセグロカモメ	*Larus schistisagus*								1(4.2)	
9 カッコウ	*Cuculus canorus*			+			3			
10 ヒバリ	*Alauda arvensis*	11(39.3)	15(38.5)		5(33.3)	10(37.0)		4(22.2)	4(16.7)	
11 ショウドウツバメ	*Riparia riparia*									
12 ハクセキレイ	*Motacilla alba*									
13 ノゴマ	*Erithacus calliope*				1(6.7)	1(3.7)				
14 ノビタキ	*Saxicola torquata*				1(6.7)	1(3.7)				
15 シマセンニュウ	*Locustella ochotensis*	4(14.3)	8(20.5)		2(13.3)	2(7.4)	1	6(33.3)	6(25.0)	
16 マキノセンニュウ	*L. lanceolata*	3(10.7)	3(7.7)			1(3.7)		1(5.6)	2(8.3)	
17 オオジュリン	*Emberiza schoeniclus*	1(3.6)	4(10.3)		4(26.7)	7(25.9)		1(5.6)	4(16.7)	
18 カワラヒワ	*Carduelis sinica*	9(32.1)	9(23.1)		2(13.3)	5(18.5)		6(33.3)	7(29.2)	
19 ベニマシコ	*Uragus sibiricus*									
20 ハシブトガラス	*Corvus macrorhynchos*									
	合 計 Total	28	39		15	27	5	18	24	2

	ルート Route No.	R.2 (D) 10:14-11:10 Fair			R.2 (E) 10:21-11:14 Fair			R.2 (Total)		
No. 種	観察幅 Range	50m	100m	Outside	50m	100m	Outside	50m	100m	Outside
1 カイツブリ	*Podiceps ruficollis*			2						2
2 ウミウ	*Phalacrocorax capillatus*						2			2
3 アオサギ	*Ardea cinerea*									1
4 オジロワシ	*Haliaeetus albicilla*		1(5.3)						1(0.4)	2+
5 タンチョウ	*Grus japonensis*									
6 シロチドリ	*Charadrius alexandrinus*	1(8.3)	1(5.3)		2(5.4)	2(3.3)		3(2.7)	3(1.3)	
7 アカアシシギ	*Tringa totanus*			1						1
8 オオセグロカモメ	*Larus schistisagus*						9		1(0.4)	9
9 カッコウ	*Cuculus canorus*					1(1.7)			1(0.4)	3+
10 ヒバリ	*Alauda arvensis*	1(8.3)	1(5.3)		12(32.4)	22(36.7)	9	33(30.0)	76(33.2)	12
11 ショウドウツバメ	*Riparia riparia*					1(1.7)			1(0.4)	
12 ハクセキレイ	*Motacilla alba*	3(25.0)	4(21.1)		1(2.7)	2(3.3)		4(3.6)	6(2.6)	
13 ノゴマ	*Erithacus calliope*	1(8.3)	1(5.3)		1(2.7)	1(1.7)		3(2.7)	3(1.3)	
14 ノビタキ	*Saxicola torquata*							1(0.9)	1(0.4)	
15 シマセンニュウ	*Locustella ochotensis*	3(25.0)	3(15.8)		4(10.8)	6(10.0)		19(17.3)	31(13.6)	1
16 マキノセンニュウ	*L. lanceolata*							4(3.6)	14(6.0)	
17 オオジュリン	*Emberiza schoeniclus*		1(5.3)		1(2.7)	4(6.7)	2	7(6.4)	20(8.5)	2
18 カワラヒワ	*Carduelis sinica*	3(25.0)	7(36.8)		16(43.2)	20(33.3)		36(32.7)	71(30.9)	
19 ベニマシコ	*Uragus sibiricus*					1(1.7)			1(0.4)	
20 ハシブトガラス	*Corvus macrorhynchos*						3			3
	合 計 Total	12	19	3	37	60	25	110	230	38+

注）＋は100mの観察幅以外の未計数記録，－は足跡による記録．
Species observed outside the transect are represented with a plus mark. Records by foot print are represented with a minus mark.

ラスが記録された．観察幅を50m幅から100m幅に広げた場合，R.1 (A) ではコマドリ，ヒガラ，アオジの確認記録が増えており，同様にR.1 (B) ではコマドリ，ウグイス，エゾセンニュウ，シマセンニュウ，ゴジュウカラの確認記録が増えた．観察幅を50mから100mに広げた場合，さえずりで確認しやすい種の記録数が増加することを示唆している．

ケラムイ岬では，表5に示した8目16科20種の鳥類が記録された．草原に湿地が点在する環境を反映して，大部分は草地性の種であった．また，海に細長く突き出た半島であるため，ウミウやオオセグロカモメなどの海岸性の種も観察された．観察個体数による優占度では，観察幅50mの場合，センサスルート全体でカワラヒワが32.7%を占めて最も多く，次いでヒバリ30.0%，シマセンニュウ17.3%，オオジュリン6.4%等の順であった．また，平坦地で見通

しが利く草原であるため，観察幅50mと100mでは出現種とその優占状況に大きな差は認められなかった．センサスルート周辺は全体が砂丘草原であるが，場所により湿潤の程度が異なっていた．3㎞地点より終点に至るR.2 (D) とR.2 (E) には湿地が点在し，水辺環境を反映したシロチドリやハクセキレイ，また範囲外で観察距離が遠く年齢や繁殖状況などは不明であるが，アカアシシギが1羽観察された．センサスルートR.2 (C) では，低茎草地にできた水たまりでタンチョウの足跡が観察された．R.2 (A) ～R.2 (D) からは，それぞれオジロワシが1例ずつ観察されており，R.2 (B) とR.2 (D) では成鳥であることも確認された．これらは個体識別を行なっていないために詳細は不明であるが，5人の調査者が各区間を同時に調査したための重複記録の可能性がある．カラス類は少なく，R.2 (E) でハシブトガラスが3羽観察されただけであった．

・タンチョウおよびシマフクロウの生息状況

タンチョウは，ケラムイ岬基部 (K-16) の湿地で成鳥が2羽観察された．また，これらの個体を発見した場所で，少なくとも2年前から使用されていると思われる古巣が確認された．1995年および1996年に国後島ケラムイ岬で足環標識を装着された個体が北海道阿寒町と鶴居村で観察され，北海道と国後島を行き来していることも明らかとなっている (佐藤 1996, 1997)．

シマフクロウは，複数の地点で痕跡ないし個体が確認された．ドマセワ川沿い (K-3) のトドマツを主体とした常緑針葉樹林内では，少なくとも1羽の生息が確認された．林床には湿地が点在し，エゾアカガエルの幼生が多数みられたが，その水際には数枚の羽毛が落ちていた．また，近くの樹枝上からは風切羽が発見された．羽毛が発見された地点からほど近い，ササ原の中に高木が疎生する開けた環境では，トドマツの樹上から飛び去る個体が観察された．またドマセワ川の河口付近では，シマフクロウによるものと思われるサケ科魚類の食痕が発見された．植古丹 (K-4) の海岸では，風切羽が1枚発見された．東沸湖岸 (K-10) では，水際の砂州で足跡や羽毛などの痕跡が確認された．しかし，いずれも営巣木や繁殖の確認はできなかった．なお，クリリスキー国立自然保護区の職員による2000年2月の調査では，東沸湖周辺の樹林で少なくとも4つがいの生息が鳴き声によって確認されている．

国後島でのシマフクロウの生息環境は，北海道における生息環境とはやや異なっていた．北海道では，シマフクロウの生息環境は広葉樹の大径木が生育する自然林である (竹中 2000)．しかし，国後島では広葉樹林の占める割合が非常に少なく大部分がエゾマツやトドマツなどの針葉樹の純林であった．この状況は，国後島北部の爺々岳南西麓でも同様で，オオバヤナギからなる河畔林を除いてほとんどが針葉樹のエゾマツやアカエゾマツ，トドマツの純林であり，営巣木はオオバヤナギやダケカンバである (竹中 2000)．つまり，国後島におけるシマフクロウの生息環境は，広葉樹林や針広混交林が広がる北海道の生息環境とはやや異なっているといえる．このような針葉樹の純林に近い環境に，オオバヤナギやダケカンバなどの広葉樹が点在する環境も，シマフクロウの本来の生息場所のひとつであると考えられ，人手が加わっていない本種の生息環境の一端を示唆するものである．

3）色丹島

・鳥類相の概要

色丹島は択捉島と国後島に比べて小さく，また丘状の地形が多い島である．山地を欠き，沿岸部は切り立った崖と複雑な海岸線になるところが多い．このような環境を反映して，陸上部は森林から草原に生息する種が生息し，海岸部は海鳥の生息地となっていた．わずかな時間での調査結果から，鳥類相を論じることは難しいが，陸上での約1.5日間の調査の結果，9目18科33種の鳥類が記録された（表3，付表2）．

・環境別の鳥類相

森林の鳥類

12種の鳥類が記録された．マタコタン海岸（S-1）や斜古丹近郊のダム（S-2），カンバライソから斜古丹に至る峠（S-3），イネモシリ海岸（S-7）に点在する森林では，ノスリやツツドリ，ビンズイ，ミソサザイ，ルリビタキ，メボソムシクイ，ヒガラ，シジュウカラ，ウソなどが観察された．

草原の鳥類

11種の鳥類が記録された．島内は平坦な地形と草原が多くを占め，マタコタン海岸（S-1），斜古丹近郊のダム（S-2），エイタンノット崎（S-4），イタコタン崎（S-5），イネモシリ海岸（S-7）の草原ではシマセンニュウのさえずりが多かったが，エゾセンニュウとマキノセンニュウは出現しなかった．オオジシギ，カッコウ，ヒバリ，ノゴマ，ノビタキ，シマセンニュウ，アオジなどの森林周辺部から草原を好む種が観察された．

海岸と島の鳥類

15種の鳥類が記録された．沿岸部や周辺の島は海鳥の繁殖地となっており，エトピリカやケイマフリ，ウトウ，チシマウガラス，ヒメウ，オオセグロカモメなどが観察された．ウミネコは確認されなかった．エトピリカは営巣を確認できなかったものの，イタコタン海岸（S-5）で20羽，カンバライソ沖の小島（S-6）で6羽，イネモシリ海岸（S-7）で22羽が観察された．ケイマフリは穴澗湾の入り口付近の海上で35羽が観察され，その他の地域でも観察されたが繁殖は確認できなかった．チシマウガラスはカンバライソ沖の小島（S-6）で3巣，イタコタン海岸（S-5）の離島で巣と卵が確認された．ヒメウはカンバライソ沖の小島（S-6）で営巣が確認された．オオセグロカモメは沿岸部で広く観察され，カンバライソ沖の小島（S-6）では営巣が確認された．

4）船上調査による北方四島周辺海域の鳥類相

船上からの調査結果を表6に，調査地点別の結果を付表2に示した．北海道根室港および国後島古釜布港との間の海上（OS，HS）では，オオハムやコアホウドリ，フルマカモメ，ハシボソミズナギドリ，カンムリウミスズメ，エトピリカなど19種が観察された．

国後島の北東端，安波移矢岬沖の弁天島から留夜別岬沖の荒島までを，国後島東岸に沿っ

表 6. 北方四島周辺海上における鳥類生息確認種（船上調査）
Table 6. Bird species recorded from a ship at sea and from the coast around the South Kuril Islands.

No.	種	Species	国後島 Kunashiri Is. 荒島と周辺海上 In & around Arashima (Rogacheva) Is. 27 Jul.2000	国後島 Kunashiri Is. 沿岸部と海上 Coast & Sea 26 Jul.2000	色丹島 Shikotan Is. 沿岸部と海上 Coast & Sea 25,26 Jul.2000	沖合海上 Offshore sea 16,19 Jul.1998	沖合海上 Offshore sea 25 Jul.1998
1	オオハム	*Gavia arctica*		○		○	
2	コアホウドリ	*Diomedea immutabilis*			○	○	○
3	フルマカモメ	*Fulmarus glacialis*	7	○	○	○	○
4	ハイイロミズナギドリ	*Puffinus griseus*	1		○	○	○
5	ハシボソミズナギドリ	*P. tenuirostris*		○	○	○	○
6	ハイイロウミツバメ	*Oceanodroma furcata*		○	○	○	○
7	コシジロウミツバメ	*O. leucorhoa*					○
8	ウミウ	*Phalacrocorax capillatus*		○	310+	○	○
9	ヒメウ	*P. pelagicus*		○	81+		
10	チシマウガラス	*P. urile*			85		○
11	シノリガモ	*Histrionicus histrionicus*			○		
12	オジロワシ	*Haliaeetus albicilla*			○		
13	ハヤブサ	*Falco peregrinus*			○		○
14	ハイイロヒレアシシギ	*Phalaropus fulicarius*				○	○
15	アカエリヒレアシシギ	*P. lobatus*				○	
16	オオトウゾクカモメ	*Catharacta maccormicki*			○		
17	トウゾクカモメ	*Stercoralius pomarinus*		○		○	○
18	オオセグロカモメ	*Larus schistisagus*	114	○	○	○	○
19	ウミネコ	*L. crassirostris*	2		○	○	
20	ミツユビカモメ	*L. tridactylus*	5	○		○	
21	ウミガラス	*Uria aalge*		○		○	
22	ハシブトウミガラス	*U. lomvia*				○	
23	ケイマフリ	*Cepphus carbo*	57	○	575+	○	○
24	ウミスズメ	*Synthliboramphus antiquus*		○			○
25	カンムリウミスズメ	*S. wumizusume*				3	
26	ウトウ	*Cerorhinca monocerata*	173	○	31	○	○
27	エトピリカ	*Lunda cirrhata*	85	○		○	○
28	アマツバメ	*Apus pasificus*			18		
29	ハクセキレイ	*Motacilla alba*			○		
	合計種数	Total species	8種	14種	18種	19種	16種
			4目7科16種		7目12科18種	4目9科23種	

注） 個体数が計数できた場合は，表中にその数を示した．The figures on each locarity designate individual number.

て南西に移動し海上から観察したところ(M-1)，14種が観察された．海上ではフルマカモメやハシボソミズナギドリが多くみられ，オオハムやハイイロウミツバメ，トウゾクカモメ，ミツユビカモメ，ウミガラス，ウミスズメなども観察された．岩礁部やその周辺では，オオセグロカモメ，ウミウ，ヒメウ，ケイマフリ，ウトウ，エトピリカなどが観察された．荒島（A-2）は，留夜別岬の沖350mに位置する周囲約80mの小島であり，船上からの観察でオオセグロカモメ114羽が観察されるとともに，それらを主体とした集団繁殖地が確認された．また周辺海上（A-1）と荒島（A-2）ではケイマフリ57羽，ウトウ173羽，エトピリカ85羽が観察され，さらにフルマカモメやハイイロミズナギドリ，ウミネコ，ミツユビカモメなど８種が観察された．Anisimova（1996）は，荒島でオオセグロカモメ，ウミウ，チシマウガラス，ケイマフリ，ウトウ，エトピリカの集団繁殖地を記録しており，留夜別岬ではウミネコの巣も確認している．

色丹島北東岸の軍艦岬から大崎を経てエイタンノット崎へ至る海上（M-2）では，コアホウドリ，フルマカモメ，ハシボソミズナギドリ，ハイイロミズナギドリ，チシマウガラス，ケイマフリ，エトピリカなど18種が観察された．エトピリカの集団繁殖地はエイタンノット崎周辺に存在し，ケイマフリは軍艦岬に300羽以上からなる集団繁殖地が，そのほかにも数羽

ないし数十羽からなる集団繁殖地が合計12か所確認された．ウミウは3か所，チシマウガラスも3か所で集団繁殖地が確認された．また猛禽類では，飛翔中のオジロワシおよびハヤブサが観察されたが，航行中の船上からの観察であり繁殖等の詳細については判らなかった．また，沿岸部にはアマツバメやハクセキレイなどもみられた．なおAnisimova (1996)は，色丹島でオオセグロカモメ，ケイマフリ，ウトウ，エトピリカ，ウミウ，チシマウガラス，コシジロウミツバメの集団繁殖地を記録している．

色丹島と国後島との間の海上（M-3）では，コアホウドリ，フルマカモメ，ハシボソミズナギドリ，ウミウ，チシマウガラス，トウゾクカモメ，オオセグロカモメ，ケイマフリ，ウミスズメ，ウトウ，エトピリカなど16種が観察された．

謝　辞

本稿をまとめるにあたって，クリリスキー国立自然保護区の Evgeniy M. Grigoryev 区長からは北方四島の鳥類に関する情報およびご助言をいただいた．また，専門家交流という枠組みの創設から実際に北方四島へ渡航するまでには，外務省，総務庁（当時），環境庁（当時），北海道庁，根室市，北方領土問題対策協会，北方四島交流促進全国会議，千島歯舞諸島居住者連盟，安田火災海上株式会社，三菱商事株式会社，NHK，国際ツル財団，日本野鳥の会の道内各支部，故岩垂寿喜男日本野鳥の会前副会長，日本野鳥の会ボランティア翻訳グループアジアクラブの島崎芙美子氏，ロシア政府，サハリン州政府，クリリスキー国立自然保護区職員をはじめとする多くの方にお世話になった．以上，すべての方々に心からお礼申し上げる．

要　約

1998年7月15～20日と2000年7月19～28日に，北方四島の択捉島，国後島，色丹島およびそれらの周辺海上において鳥類の生息状況を調査した．その結果，陸上および海上をあわせて合計15目35科98種の鳥類が観察された．

択捉島では38種の鳥類が観察された．山地地形が多かったが，河口や低地には大規模な湿原が発達し，海岸には砂浜草原がみられた．森林では，アカゲラやアカハラ，コルリ，ウソ，ホシガラスなどが観察された．草原や湿原では，アオサギ，オオジュリン，シマセンニュウ，ノゴマ，ヒバリなどが観察された．

国後島では68種の鳥類が観察された．山地地形が多く存在したが，河口や低地には湿原が発達し，海岸には砂浜草原がみられた．森林ではコマドリやルリビタキ，キクイタダキ，ヒガラなどが観察され，草原や湿原ではアオサギ，ヒバリ，シマセンニュウ，オオジュリン，カワラヒワなどが観察された．

タンチョウは，国後島ケラムイ岬でつがいと思われる成鳥が2羽観察された．また，これらの個体を観察した湿地で，古巣が発見された．これは，過去数年間にわたって繰り返し使用されたものであり，繁殖は確認できなかったものの重要な発見となった．

シマフクロウは，国後島東沸湖周辺やトマセワ川沿いで痕跡ないし個体が観察された．営巣木や繁殖に関する徴候は確認できなかった．国後島におけるシマフクロウの生息環境は，針葉樹の純林に近い

環境に，オオバヤナギやダケカンバなどの広葉樹が点在する環境であった．これは，広葉樹林や針広混交林が広がる北海道の生息環境とはやや異なっていたが，このような環境もシマフクロウの本来の生息場所のひとつであると考えられ，人手が加わっていない本種の生息環境の一端を示唆するものと考えられた．

色丹島では33種の鳥類が観察された．島は全体が平坦な地形と丘状の地形からなり，大規模な樹林の発達はみられなかった．観察種は，シマセンニュウやオオジシギ，カッコウ，ヒバリ，アオジなどの森林周辺部から草原を好む種が主体であった．沿岸部は複雑に入り組んだ海岸線を形成しており，ウミウ，ヒメウ，チシマウガラス，シノリガモ，オオセグロカモメ，ケイマフリ，エトピリカなどが生息していた．

海上および沿岸域では29種の鳥類が観察された．沿岸域ではケイマフリやエトピリカ，ウトウ，チシマウガラスなどが観察された．北方四島にはこれらの海鳥にとって良好な環境が多く存在するものと考えられた．

北方四島の鳥類相は，北海道の中でもとりわけ道東地域と類似していた．しかし，アオバトやコヨシキリ，ヒヨドリ，コムクドリなどのように北海道では普通にみられる種が，少ないかあるいは全く観察されないなどの違いもみられた．

引用文献

Anisimova, O. A. 1996. Information on breeding of seabirds on South Kuril Islands. Birds of the wetlands of the southern Russian Far East and their protection. pp. 228-231. [邦訳:藤巻裕蔵. 2001. 南千島におけるコロニー海鳥類の繁殖. 極東の鳥類 18 千島・サハリン特集. pp. 88-89. 極東鳥類研究会，帯広市.]

Artukhin, Yu. B., Burkanov, V. N. & Vyatkin, P. S. 1999. Incidental mortality of seabrds in the driftnet salmon fishery by Japanese vessels within the Russian exclusive economic zone, 1993-1998. The biology and conservation of the birds of Kamchatka 1 : 91-108. [邦訳:藤巻裕蔵. 2000. 1993～1998年ロシア経済水域における日本漁船によるサケ流網漁に伴う海鳥の死亡. 極東の鳥類17海鳥類特集. pp. 82-98. 極東鳥類研究会，帯広市.]

藤巻裕蔵. 1998. 北海道鳥類目録. 帯広畜産大学野生動物管理学研究室，帯広市.

藤田剛・樋口広芳. 1991. 北太平洋での操業による海鳥類の死亡状況. Strix 10: 1-19.

片岡義廣・水野政巳. 1999. 北海道浜中町霧多布におけるエトピリカの生態と生息数変動. Strix 17: 1-14.

近藤憲久・橋本正雄・綿貫豊. 1986. ユルリ・モユルリ両島における鳥類相の変化. 根室市博物館開設準備室紀要（1）: 33-46.

Nechaev, V. A. 1969. 南千島の鳥類. [邦訳:藤巻裕蔵. 1979. 鳥学双書第17編. 日本鳥学会，東京.].

ネチャエフ，V. A. &藤巻裕蔵. 1994. 南千島鳥類目録（国後，択捉，色丹，南舞）. 北海道大学図書刊行会，札幌市.

佐藤文男. 1996. タンチョウ. 平成 7 年度鳥類標識調査報告書（鳥類観測ステーション運営）pp.

102-107. 山階鳥類研究所, 我孫子市.
佐藤文男. 1997. タンチョウ. 平成 8年度鳥類標識調査報告書(鳥類観測ステーション運営) pp. 124-128. 山階鳥類研究所, 我孫子市.
竹中健. 2000. 国後のシマフクロウと自然環境. NC Hokkaido (110): 3-4.
内田清之助. 1912. 千島産鳥類目録. 動物学雑誌 24: 270-280.
山階芳麿. 1929. 再び千島列島産鳥類に就いて. 鳥 6: 145-160.
Yamashina, Y. 1931. Die Vogel der Kurilen. Jpn. J. Ornithol. 4: 491-541.

Birds of Japan's disputed northern territories, the South Kuril Islands

Makoto Kawanabe[1], Noritaka Ichida[2], Yutaka Kanai[3], Shinji Kawasaki[4], Yuzo Fujimaki[5] & Fumio Sato[6]

1. International Center, Wild Bird Society of Japan. 2-35-2 Minamidaira, Hino, Tokyo 191-0041, Japan
2. Asia Council, BirdLife International. 2-35-2 Minamidaira, Hino, Tokyo 191-0041, Japan
3. Research Center, Wild Bird Society of Japan. 2-35-2 Minamidaira, Hino, Tokyo 191-0041, Japan
4. Sanctuary Center, Wild Bird Society of Japan. Shunkunitai Wild Bird Sanctuary Nature Center, 103 Tobai, Nemuro, Hokkaido 086-0074, Japan
5. Laboratory of Wildlife Ecology, Department of Agro-Environmental Science, Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine, Inada, Obihiro, Hokkaido 080-8555, Japan
6. Yamashina Institute for Ornithology. 115 Konoyama, Abiko, Chiba 270-1145, Japan

The avifauna of the South Kuril Islands (Japan's northern territories, presently in Russian Federation) were researched during 15-20 July, 1998 and 19-28 July, 2000. A total of 98 species was recorded.

In Etorofu Is., 38 species were observed. *Dendrocopos major, Turdus chrysolaus, Erithacus cyane, Pyrrhula pyrrhula, Nucifraga caryocatactes,* etc. were observed in the forest. *Ardea cinerea, Emberiza schoeniclus, Locustella ochotensis, Er. calliope, Alauda arvensis,* etc. were observed in grassland or wetland areas.

In Kunashiri Is., 68 species were observed. *Er. akahige, Tarsiger cyanurus, Regulus regulus, Parus ater,* etc. were observed in the forest. *Ar. cinerea, Em. schoeniclus, Locustella ochotensis, Ala. arvensis, Carduelis sinica,* etc. were observed in grassland or wetland areas.

Two individuals of *Grus japonensis* and their old nest were observed at Keramui (Veslovskiy). *Ketupa blakistoni* was observed around Tofutsu-ko (Lake Peschanoye) and along the Domaseva River in Kunashiri Is. but the nesting tree was not discovered. The habitat of this species was rather different from that in Hokkaido.

In Shikotan Is., 33 species were observed, including *Ar. cinerea, Em. schoeniclus, Locustella ochotensis, Gallinago hardwickii, Cuculus canorus, Al. arvensis, Em. spodocephala, Phalacrocorax capilatus, P. urile, Histrionicus histrionicus, Larus schistisagus, Cepphus carbo, Lunda cirrhata,*

29 species were observed along the coasts and at sea, including *Cepphus carbo, Lunda cirrhata, Cerorhinca monocerata, Phalacrocorax urile.* Their habitat seemed to be in good condition. The avifauna is closely allied to that of eastern of Hokkaido. But some species that are common in Hokkaido, notably *Spenurus sieboldii, Acrocephalus bistrigiceps, Hypsipetes amaurotis* and *Sturnus philippensis,* were either not observed or were very rare.

Key words: Avifauna, Grus japonensis, Ketupa blakistoni, *Sea birds, South Kuril Islands*

付表 1. 北方四島における鳥類調査実施地点
Appendix 1. Exploitation area in the South Kuril Islands.

島名 Island	地点番号 Locality No.	調査日時 Date & Local time	調査地点 Locality	環境 Environment*
択捉島	E-1	18 July 1998 18:30-19:20	別飛湿原 Beppi (Reydovo) Marsh	湿原 W
Etorofu Is.	E-2	18 July 1998 19:53-20:15	別飛湿原付近森林 Forest near Beppi (Reydovo) Marsh	森林 F
	E-3	18 July 1998 11:20-16:10	紗那周辺 Syana (Kurilsk)	森林, 草原 F & G
	E-4	18 July 1998 16:36-17:00	紗那近郊孵化場 Hatchery near Syana (Kurilsk)	森林, 草原 F & G
	E-5	19 July 1998 17:50-	ナヨカ湾 Nayoka (Kitovyy) Bay	海岸 C
	E-6	19 July 1998 10:40-11:15	森林地域（紗那－留別） Forest between Syana (Kurilsk) & Rubetsu (Pioner)	森林 F
	E-7	18 July 1998 11:23-13:10	留別川 Rubetsu (Kuybyshevka) Riv.	森林, 草原, 河川 F, G & R
	E-8	18 July 1998 11:30-11:49	留別沼 Rubetsu-numa (Lake Maloye)	草原, 湖沼 G & L
	E-9	18 July 1998 11:52	年萌湖分岐 Junction of Toshimoi-ko (Blagodamoye)	森林, 草原 F & G
	E-10	18 July 1998 12:16-13:30	年萌 Toshimoi	草原 G
国後島	K-1	23 July 2000 16:10-16:45	ノットセ Nottose (Petrova)	森林, 草原, 海岸 F, G & C
Kunashiri Is.	K-2	24 July 2000 6:35-9:04	チクニ川沿い Along Chikuni (Ilyushina) Riv.	森林, 草原, 河川 F, G & R
	K-3	24 July 2000 6:00-9:50	ドマセワ川沿い Along Domaseva Riv.	森林, 草原, 河川 F, G & R
	K-4	19&24 July 2000 15:45-17:10 (19th), 14:50-15:25(24th)	植古丹 Uenkotan	森林, 草原, 海岸 F, G & C
	K-5	19 July 2000 15:00-15:35	キナカイ Kinakai (Remontnyy)	草原 G
	K-6	23 July 2000 14:20-14:35	近布内 Chikappunai (Sukacheva)	森林, 草原, 海岸 F, G & C
	K-7	24 July 2000 14:10-14:25	古釜布湾 Furukamappu (Yuzhno-Kurilskaya) Bay	海岸 C
	K-8	23 July 2000 11:00-11:30	ニキショロ湖 Nikisyoro-ko (Lake Lagunnoye)	草原, 湖沼 G & L
	K-9	21&22 July 2000 7:05-9:40 (21st), 6:50-10:10 (22nd)	東沸川河口～東沸湖 Tofutsu (Sernovodsk)～Tofutsu-ko (Peschanoye)	湿原, 河川, 湖沼 W, R & L
	K-10	21&22 July 2000 12:30-17:50 (21st), 14:10-17:40 (22nd)	東沸湖周辺 Around Tofutsu-ko (Lake Peschanoye)	森林, 河川, 湖沼 F, R & L
	K-11	21&22 July 2000 9:40-10:55 (21st), 17:40-18:10(22nd)	監視小屋周辺 Around observation shed	森林, 草原, 湖沼 F, G & L
	K-12	22 July 2000 7:10-9:00, 11:10-12:10	監視小屋～二本岩 Shed～Nihon-Iwa (Znamenka)	森林, 草原, 海岸 F, G & C
	K-13	22 July 2000 9:00-11:10	二本岩～植尻 Nihon-Iwa (Znamenka)～Uenjiri (Alekhina)	森林, 草原, 海岸 F, G & C
	K-14	20 July 2000 15:50-16:40	アンドレエフカ川沿い Along Andreyevka Riv.	森林, 海岸 F & C
	K-15	20 July 2000 8:50-9:45	ケラムイ岬先端付近 Tip of Keramui (Veslovskiy)	草原, 湿原, 海岸 G, W & C
	K-16	20 July 2000 13:00-15:30	ケラムイ岬基部付近 Basal part of Keramui (Veslovskiy)	草原, 湿原, 湖沼 G, W & L
	A-1	27 July 2000 15:00-15:30	国後島荒島神～荒島 Arashima (Rogacheva) Is.～Off Arashima (Rogacheva) Is.	海上 S
	A-2	27 July 2000 15:00-15:30	国後島荒島とその周辺 In and around Arashima (Rogacheva) Is.	島とその周辺海上 I & S
色丹島	S-1	16 July 1998 20:25-20:35	マタコタン海岸 Matakotan (Trezubets)	森林, 草原, 海岸 F, G & C
Shikotan Is.	S-2	17 July 1998 9:00-9:30	斜古丹近郊ダム Dam near Syakotan (Malokurilskoye)	森林, 草原 F & G
	S-3	17 July 1998 16:00-16:30	峠（カンバライソー斜古丹） Pass between Kanbaraiso & Syakotan (Malokurilskoye)	森林 F
	S-4	17 July 1998 9:51-12:00	エイタンノット崎 Eltannotto (Kray Sveta)	草原, 海岸 G & C
	S-5	17 July 1998 12:30-12:56	イタコタン崎 Itakotan (Nepokornyy)	草原, 海岸 G & C
	S-6	17 July 1998 14:30-16:00	カンバライソ神の小島 Island off Kanbaraiso near Itakotan (Nepokornyy)	海岸 C
	S-7	16 July 1998 19:02-20:05	イネモシリ海岸 Inemoshiri (Dimitrova)	森林, 草原, 海岸 F, G & C
沖合海上	OS	15 July 1998 16:28-	北海道根室港～国後島古釜布港 Nemuro, Hokkaido～Furukamappu (Yuzhno-Kurilskaya), Kunashiri Is.	海上 S
Offshore sea	HS	19&20 July 1998 16:30-18:00 (19th), 10:40-14:00 (20th)	国後島古釜布港～北海道根室港 Furukamappu (Yuzhno-Kurilskaya), Kunashiri Is.～Nemuro, Hokkaido	海上 S
	M-1	27 July 2000 11:30-15:00	国後島弁天島～荒島 Bentenjima (Piko) Is.～Arashina (Rogacheva) Is., Kunashiri Is.	海岸, 海上 C & S
	M-2	25 July 2000 9:10-16:15	色丹島軍艦岬～大崎～エイタンノット崎 Gunkanmisaki (Otradnyy)～Osaki (Uglovoy)～Eitannotto (Kray Sveta), Shikotan Is.	海岸, 海上 C & S
	M-3	26 July 2000 7:10-14:30	色丹島～国後島 Shikotan Is. ～Kunashiri. Is.	海上 S

*C: Coast, F: Forest, G: Grassland, I: Island, L: Lake, R: River, S: Sea, and W: Wetland

付表 2. 調査地点別鳥類生息確認種（1998年および2000年調査結果）
Appendix 2. Bird list of the South Kuril Islands based on the research in 1998 and 2000.

No.	種	Species	調査地点 Locality																																				
			E-1	E-2	E-3	E-4	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9	E-10	K-1	K-2	K-3	K-4	K-5	K-6	K-7	K-8	K-9	K-10	K-11	K-12	K-13	K-14	K-15	K-16	R.1	R.2	A-1	A-2	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6	S-7	OS	HS	M-1	M-2	M-3
1	オオハム	*Gavia arctica*																																						O	O			
2	カイツブリ	*Podiceps ruficollis*																					O				O		O															
3	コアホウドリ	*Diomedea immutabilis*																																							O		O	O
4	フルマカモメ	*Fulmarus glacialis*																												O										O	O	O	O	O
5	ハイイロミズナギドリ	*Puffinus griseus*																												O										O			O	O
6	ハシボソミズナギドリ	*P. tenuirostris*																																						O	O	O	O	O
7	ハイイロウミツバメ	*Oceanodroma furcata*																												O											O	O	O	O
8	コシジロウミツバメ	*O. leucorhoa*																																										O
9	ウミウ	*Phalacrocorax capillatus*											O					O											O	O	O				O	O		O	O		O	O	O
10	ヒメウ	*P. pelagicus*																																		O		N					O	O	
11	チシマウガラス	*P. urile*																																		N		E&N	O				O	O
12	アオサギ	*Ardea cinerea*	O													O	O										O		O			O											
13	オシドリ	*Aix galericulata*																																O										
14	マガモ	*Anas platyrhynchos*																			O	O					O																	
15	キンクロハジロ	*Aythya fuligula*							O													O																						
16	スズガモ	*A. marila*																									O																
17	シノリガモ	*Histrionicus histrionicus*											O																							O	O	O				O		
18	ウミアイサ	*Mergus serrator*																						O																			
19	ミサゴ	*Pandion haliaetus*																			O	O	O	O																			
20	トビ	*Milvus migrans*			O																					O	O																
21	オジロワシ	*Haliaeetus albicilla*			O		O	O	O			O			O	O	O	O					O	O	O		O	O		O												O		
22	ノスリ	*Buteo buteo*																																	O								
23	ハヤブサ	*Falco peregrinus*					O																																			O	O
24	タンチョウ	*Grus japonensis*																									O	O	O														
25	クイナ	*Rallus aquaticus*							O																																		
26	シロチドリ	*Charadrius alexandrinus*											O														O		O														
27	メダイチドリ	*C. mongolus*																									O																
28	トウネン	*Calidris ruficollis*																						O																		
29	アカアシシギ	*Tringa totanus*																									O		O														
30	タカブシギ	*T. glareola*	O																																								
31	キアシシギ	*T. brevipes*																					O	O																			
32	オオジシギ	*Gallinago hardwickii*																			O														O								
33	ハイイロヒレアシシギ	*Phalaropus fulicarius*																																						O			O
34	アカエリヒレアシシギ	*P. lobatus*																																						O			
35	オオトウゾクカモメ	*Stercorarius skua*																																								O	
36	トウゾクカモメ	*S. pomarinus*																																						O		O		O
37	オオセグロカモメ	*Larus schistisagus*				O		O		O		O			O	O		O	O	O			O	O					O	O	O		O			O		E&N	O	O	O	O	O	O
38	ウミネコ	*L. crassirostris*				O									O	O		O		O											O										O			
39	ミツユビカモメ	*L. tridactylus*																O													O										O	O	O	
40	ウミガラス	*Uria aalge*																																						O	O	O	O	
41	ハシブトウミガラス	*U. lomvia*																																							O			
42	ケイマフリ	*Cepphus carbo*					O																							O	O				O	O		O	O		O	O	O
43	ウミスズメ	*Synthliboramphus antiquus*																																								O		O
44	カンムリウミスズメ	*S. wumizusume*																																						O			

No.	種	Species	調査地点 Locality																																									
			E-1	E-2	E-3	E-4	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9	E-10	K-1	K-2	K-3	K-4	K-5	K-6	K-7	K-8	K-9	K-10	K-11	K-12	K-13	K-14	K-15	K-16	R.1	R.2	A-1	A-2	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6	S-7	OS	HS	M-1	M-2	M-3
45	ウトウ	*Cerorhinca monocerata*																																				N		○	○	○	○	○
46	エトピリカ	*Lunda cirrhata*																													○	○				○	○	○	○		○	○		○
47	キジバト	*Streptopelia orientalis*	○	○	○	○		○	○			○		○	○						○	○	○		○								○	○					○					
48	カッコウ	*Cuculus canorus*			○																						○			○			○	○										
49	ツツドリ	*C. saturatus*																											○					○										
50	シマフクロウ	*Ketupa blakistoni*													○	W					FP																							
51	アマツバメ	*Apus pasificus*	○	○			○		○			○				○				○			○						○						○	○							○	
52	アカゲラ	*Dendrocopos major*						○														○																						
53	コゲラ	*D. kizuki*									○											○			○				○															
54	ヒバリ	*Alauda arvensis*	○		○				○			○					○				○		○	○				○		○						○								
55	ショウドウツバメ	*Riparia riparia*	○		N				○	○		○								○			○				○			○														
56	イワツバメ	*Delichon urbica*																									○																	
57	キセキレイ	*Motacilla cinerea*													○	○					○			○	○	○																		
58	ハクセキレイ	*M. alba*	○		○	○			○	○		○			○	○	○						○	○	○					○			○	○		○			○				○	
59	ビンズイ	*Anthus hodgsoni*											○																						○									
60	ミソサザイ	*Troglodytes troglodytes*		○				○	○		○				○							○							○					○										
61	コマドリ	*Erithacus akahige*											○		○	○						○							○															
62	ノゴマ	*E. calliope*	○	○				○								○												○		○				○			○		○					
63	コルリ	*E. cyane*		○	○	○		○	○		○																																	
64	ルリビタキ	*Tarsiger cyanurus*													○	○						○							○				○	○	○				○					
65	ノビタキ	*Saxicola torquata*			○	○			○	○					○	○					○						○	○		○				○										
66	イソヒヨドリ	*Monticola solitarius*																																			○							
67	トラツグミ	*Turdus dauma*																				○	○																					
68	アカハラ	*T. chrysolaus*		○		○		○	○													○																						
69	ウグイス	*Cettia diphone*		○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○						○		○	○				○															
70	エゾセンニュウ	*Locustella fasciolata*			○			○	○		○	○	○			○													○															
71	シマセンニュウ	*L. ochotensis*	○	○	○				○			○	○			○	○				○			○			○	○	○	○			○				○		○					
72	マキノセンニュウ	*L. lanceolata*										○									○							○		○														
73	コヨシキリ	*Acrocephalus bistrigiceps*																			○																							
74	メボソムシクイ	*Phylloscopus borealis*																																					○					
75	キクイタダキ	*Regulus regulus*													○														○															
76	キビタキ	*Ficedula narcissina*				○																		○	○																			
77	サメビタキ	*Muscicapa sibirica*																											○															
78	コサメビタキ	*M. latirostris*				○																																						
79	ハシブトガラ	*Parus palustris*														○						○							○															
80	ヒガラ	*P. ater*											○		○								○		○				○					○	○									
81	シジュウカラ	*P. major*																											○				○											
82	ゴジュウカラ	*Sitta europaea*																				○							○															
83	キバシリ	*Certhia familiaris*																				○																						
84	ホオジロ	*Emberiza cioides*													○					○			○																					
85	ホオアカ	*E. fucata*																					○	○	○																			
86	アオジ	*E. spodocephala*		○		○		○	○			○	○		○	○						○	○	○	○				○				○	○										
87	オオジュリン	*E. schoeniclus*	○						○			○				○					○							○		○														
88	カワラヒワ	*Carduelis sinica*	○	○	○				○			○	○		○	○	○			○	○		○					○	○	○			○	○										
89	マヒワ	*C. spinus*												○																														
90	ベニマシコ	*Uragus sibiricus*	○		○				○	○		○	○		○	○											○		○	○														

No.	種	Species	調査地点 Locality																																									
			E-1	E-2	E-3	E-4	E-5	E-6	E-7	E-8	E-9	E-10	K-1	K-2	K-3	K-4	K-5	K-6	K-7	K-8	K-9	K-10	K-11	K-12	K-13	K-14	K-15	K-16	R.1	R.2	A-1	A-2	S-1	S-2	S-3	S-4	S-5	S-6	S-7	OS	HS	M-1	M-2	M-3
91	ウソ	*Pyrrhula pyrrhula*	○	○		○		○	○			○			○									○	○				○					○										
92	シメ	*Coccothraustes coccothraustes*																	○		○								○															
93	ニュウナイスズメ	*Passer rutilans*				○																																						
94	スズメ	*P. montanus*			○																																							
95	カケス	*Garrulus glandarius*																				○																						
96	ホシガラス	*Nucifraga caryocatactes*						○						○																														
97	ハシボソガラス	*Corvus corone*																					○		○				○															
98	ハシブトガラス	*C. macrorhynchos*	○	○	○	○	○		○	○	○	○			○	○				○			○				○			○			○	○	○		○							
		合計種数 Total species	14	12	16	12	6	13	19	9	6	17	12	3	18	21	8	1	5	6	16	17	18	14	13	2	13	14	21	20	7	6	10	16	6	10	9	6	12	12	13	14	18	16

Abbreviations N: nest, E: egg, C: chick, W: wing, FP: foot print.